

【付属資料】

【資料1】	松江市における公文書と地域に所在する歴史史料（古文書等）の数量的現状...8
	【公文書の数量的現状】
表①	松江市保管公文書の収納面積.....9
表②	単年度で発生する永年保存文書.....10
表③	平成期に発生した文書量.....11
表④	平成期の公文書の発生状況.....12
	【地域に所在する歴史史料（古文書等）の数量的現状】
表⑤	調査済み文書点数.....13
【資料2】	公文書管理と文書館のイメージ.....14
①	松江市における公文書と地域に所在する歴史史料（古文書等）の管理に関する試案.....15
②	専門的職員の配置場所と所管文書の仕分け.....16
③	文書（現用文書、歴史公文書、歴史史料）の分担管理のイメージ.....17
④	松江市文書館（仮称）の基本機能.....17
【資料3】	文書管理改善スケジュール（案）18

【資料1】

松江市における公文書と地域に所在する歴史史料(古文書等)の数量的現状

【公文書の数量的現状】

表①松江市保管公文書の収納面積

松江市が保管する公文書の収納面積(消防・支所を除く)は1,622㎡、このうち第1文書庫と各課執務室を合わせた本庁舎内での公文書収納面積は、少なくとも約1,200㎡と試算できます。

(現用公文書の約7割が永年保存文書なので、本庁舎内での永年保存文書収納面積は1,200㎡×0.7=約840㎡と試算できます)

表②単年度で発生する永年保存文書

文書作成時の約40%(冊数)が永年保存文書となっています。

表③平成期に発生した文書量

永年保存文書量(冊数)の割合は、昭和期以前(約100年間)が全体の5%(冊数)に対し、平成元～28年の28年間で95%(冊数)を占めています。

表④平成期の公文書の発生状況

平成期における公文書の発生状況(件数)をみると、平成7年と平成16年に文書発生件数が大きく増加しています。(公文書のマイクロフィルム化と平成合併の影響か)

【地域に所在する歴史史料(古文書等)の数量的現状】

表⑤ 調査済み文書点数

平成29年12月15日現在の調査点数は101,526点。松江市域に所在する予想古文書史料数は375,220点程と計算でき、寄贈・寄託実績(約38%)から、松江市域内に所在するであろう全ての古文書史料の予想収納面積は約114.4㎡と試算できます。

資料1

表① 松江市保管公文書の収納面積について

1.【公文書書庫】

名称	場所	利用開始	文書収納面積 (㎡)	書架総延長 (m) A	保存延長 (m) B	空き延長 (m) A-B	収容率 B/A(%)
第1文書庫	松江市役所別館1階	S54年	120.0	903.0	903.0	0.0	100
第2文書庫	浜佐田文書庫1階(2室)	H元年	128.4	746.1	534.4	211.7	72
第3文書庫	第3別館1階(浅利)	H12年	69.8	557.5	557.5	0.0	100
第4文書庫	松江市シルバーワークプラザ2階(3室)	H18年1月	102	361.3	346.6	14.7	96
第5文書庫	旧島根町商工観光センター1階文書庫(2室)	H23年8月	121	606.6	467.8	138.8	77
合計			a 541.2	3,174.5	2,809.3	365.2	88

※書架総延長(m)等は、H28年度実測値

※棚の幅は、規格品ではボックス8箱で80cmであるが、計測値86cmで計算したもの。計算は、棚1つ分の長さを、0.86m * 段数 * 書棚数で算出し、合計値を小数点以下2位を四捨五入した。

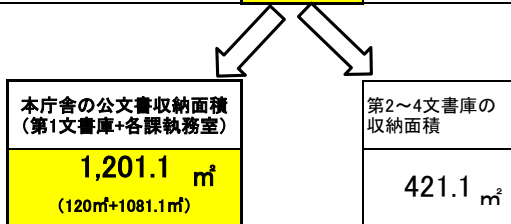
2.【各課執務室】

(文書収納書架延長(m)は文書量調査集計表(平成28年度総務課調べ)より算出)

名称・保存場所		文書収納書架延長			文書収納面積 (㎡)	備考
各課執務室	全部局 (消防・支所を除く)	公文書(m)	書籍等(m)	文書量計(m)	b 1,081.1	①幅94cm、奥行35cm、6段の書棚に収納すれば、1,638棚が必要。 (=9,237.92 / (0.94m × 6段)) ②文書収納面積として、 0.33㎡ (0.94m × 0.35m) × 2(通路計算) × 1,638棚 = 1,081.08㎡が必要。
		9,237.92	1,585.16	10,823.08		
	参考: 消防・支所を含めた場合	文書(m) 12,725.87	書籍等(m) 1,976.91	文書量計(m) 14,702.78	1,489.6	同上

3.【公文書(現用文書)の収納面積】

【公文書書庫】+【各課執務室】の 公文書収納面積 (a541.2㎡ + b1081.1㎡)	a+b 1,622.3 ㎡	永年保存文書の割合…223,454冊(永年保存) / 314,748冊(全公文書)=0.7099 ⇒全公文書のうち約70%が永年保存文書 (平成28年11月時点総務課文書目録(冊数)より算出) ⇒【公文書書庫】+【各課執務室】永年保存文書の収納面積=1,622㎡ × 0.7=1,135㎡
---	------------------------------	--



本庁舎内で、永年保存文書は少なくとも1,200㎡ × 0.7=約840㎡を占めていると試算できる

資料1

表② 単年度で発生する永年保存文書

(平成28年11月時点総務課文書目録より算出)

年度	総文書量		永年保存文書量		総文書量に対する 永年保存文書の割合		備考
	件数	冊数	件数	冊数	件数	冊数	
H28	7,306	19,961	1,187	7,823	16%	39%	
H27	6,385	18,037	1,175	7,986	18%	44%	1年保存文書廃棄
H26	6,020	15,870	1,116	6,796	19%	43%	
H25	5,052	15,065	1,105	7,734	22%	51%	3年保存文書廃棄
H24	5,184	15,433	1,190	7,716	23%	50%	
H23	2,517	11,532	1,270	8,421	50%	73%	5年保存文書廃棄 東出雲町合併
H22	2,518	10,611	1,298	6,628	52%	62%	
H21	2,624	9,524	1,329	6,379	51%	67%	
H20	2,528	9,861	1,228	5,710	49%	58%	
H19	2,202	10,008	1,154	7,005	52%	70%	
H18	1,491	8,531	1,317	7,067	88%	83%	10年保存文書廃棄
H17	1,629	8,788	1,462	8,447	90%	96%	H17合併

※上記数字は平成28年11月時点総務課文書目録の発生年度欄を「HO年度」に選択したフィルターをかけて算出したもので、

「HO～HO年度」や「HO・HO」など複数年度に渡るものは含んでいない。

※本表には消防・支所(合併後)分も含んでいる。

資料1

表③ 平成期に発生した文書量

(平成28年11月時点総務課文書目録より算出)

	全文書				永年保存文書				備考
	件数	(全件数に対する割合)	冊数	(全冊数に対する割合)	件数	(全件数に対する割合)	冊数	(全冊数に対する割合)	
昭和期以前	4,690	7%	9,421	3.6%	4,640	15%	9,407	4.9%	うち40冊は消防総務課【公文書書庫】+【各課執務室】の公文書収納面積は1,622.3㎡と計算(表①)。全文書(冊数)に対する割合は4%なので、昭和期以前文書の収納面積は1,622.3㎡×0.04=64.9㎡
平成元～28年	58,026	93%	251,505	96.4%	26,332	85%	183,992	95.1%	【公文書書庫】+【各課執務室】の公文書収納面積は1,622.3㎡と計算(表①)。全文書(冊数)に対する割合は96%なので、平成元～28年文書の収納面積は1,622.3㎡×0.96=1,557.4㎡。
合計	62,716		260,926		30,972		193,399		

※本表の「昭和期以前」とは平成28年11月時点総務課文書目録の発生年度欄の「MO」、「MO～」、「SO～HO」等を選択したもので、昭和期以前を起点として発生し、複数年度にまたがるものを含んでいる。

※本表は消防・支所(合併後)分も含んでいる。

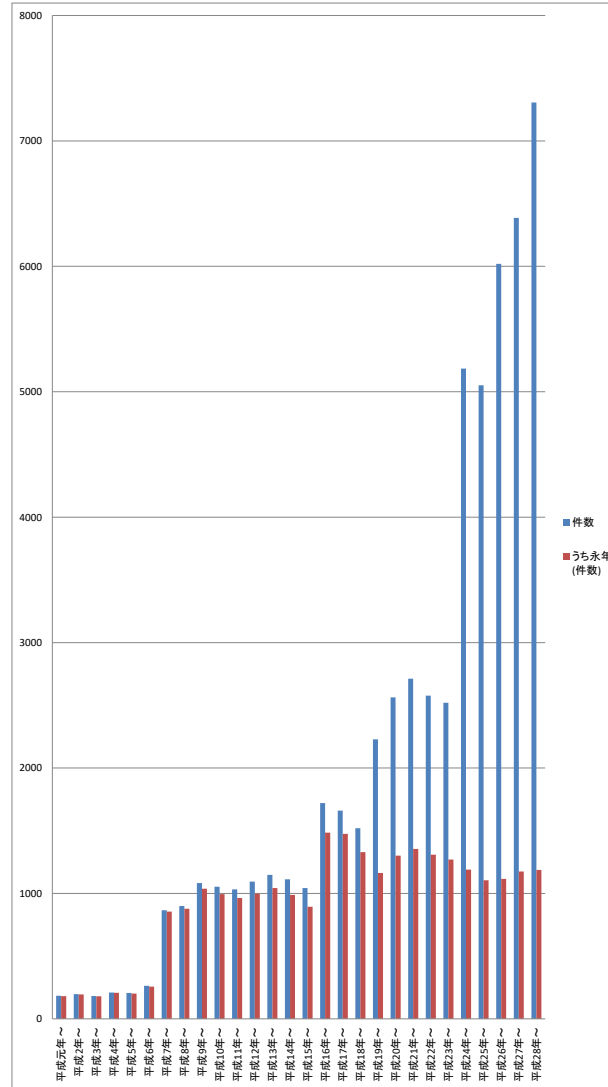
資料1

表④ 平成期の公文書の発生状況

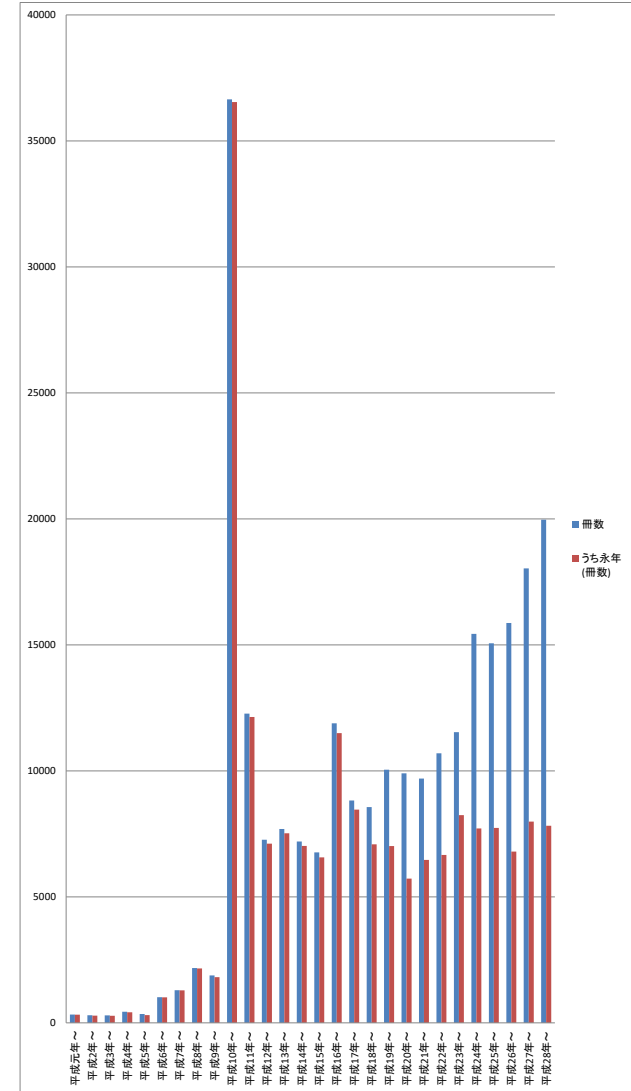
※平成28年11月時点総務課文書目録より算出

	件数	うち永年 (件数)	冊数	うち永年 (冊数)	箱数	割合	備考
平成元年～	184	181	327	325	32	99.4%	
平成2年～	197	195	302	284	20	94.0%	
平成3年～	182	180	294	280	25	95.2%	
平成4年～	210	208	442	421	20	95.2%	
平成5年～	207	201	348	307	18	88.2%	
平成6年～	263	257	1017	1011	21	99.4%	
平成7年～	866	855	1296	1287	32	99.3%	マイクロフィルム導入
平成8年～	899	878	2176	2160	21	99.3%	
平成9年～	1082	1037	1882	1812	18	96.3%	ボックスファイリング導入
平成10年～	1053	995	36649	36545	259	99.7%	戸籍26,000冊
平成11年～	1032	963	12270	12137	32	98.9%	
平成12年～	1094	998	7268	7111	263	97.8%	
平成13年～	1148	1043	7691	7522	39	97.8%	
平成14年～	1113	988	7195	7021	42	97.6%	
平成15年～	1043	894	6764	6566	28	97.1%	
平成16年～	1720	1484	11889	11497	39	96.7%	
平成17年～	1660	1475	8827	8459	31	95.8%	
平成18年～	1520	1329	8565	7083	25	82.7%	10年保存文書廃棄
平成19年～	2229	1163	10046	7013	47	69.8%	
平成20年～	2563	1301	9905	5722	12	57.8%	
平成21年～	2712	1355	9693	6468	69	66.7%	
平成22年～	2577	1309	10698	6665	143	62.3%	
平成23年～	2520	1270	11535	8241	125	71.4%	5年保存文書廃棄
平成24年～	5185	1190	15434	7716	209	50.0%	
平成25年～	5052	1105	15065	7734	182	51.3%	3年保存文書廃棄
平成26年～	6020	1116	15870	6796	166	42.8%	
平成27年～	6387	1175	18037	7986	340	44.3%	1年保存文書廃棄
平成28年～	7306	1187	19965	7823	70	39.2%	

※件数及び冊数は、平成28年11月時点総務課文書目録の発生年度欄の「HO年度」、「HO～HO年度」、「HO・HO」等を選択してフィルターをかけ算出したもので、複数年度にまたがる文書を含んでいる。
※本表には消防・支所(合併後)分も含んでいる。



件数で見る公文書の発生状況



冊数で見る公文書の発生状況

資料 1

表⑤ 調査済み歴史史料(古文書等)点数一覧

国庫補助事業実施分:	20,761 点
旧町村役場・公民館・区有文書調査実施分:	20,739 点
その他調査実施分:	41,265 点
宍道町実施分:	18,761 点
合計:	101,526 点

※平成30年12月時点

松江歴史館収蔵	23,124	寄託
	10,118	寄贈
史料編纂課収蔵	5,252	寄贈
合計:	38,494	

文書収納スペースの試算
実数

①史料編纂課の調査点数 (平成30年12月28日現在)	101,526点	
②松江市への古文書史料寄贈・寄託点数	38,494点	寄贈・寄託率 ②/①≒38% 文書箱一箱(50×37×H26)に平均約100点収納するので約385箱

想定

①松江市域に所在する予想古文書史料数	375,220点	悉皆的な古文書調査を行った宍道町を参考とし、18,761 (宍道町の調査点数)を20倍(人口比)している。
②市域所在古文書史料の予想寄贈・寄託点数	約142,584点	①×寄贈・寄託率(38%) 文書箱一箱100点収納として約1,426箱
③古文書史料の予想寄贈・寄託品収納スペース (松江市域内にあるであろう全ての古文書史料)	約114.4m ²	書架(0.50×0.80×=0.4m ²)に10箱収入できるので、必要書架は143個 0.4m ² ×2(通路計算)×143=114.4m ²